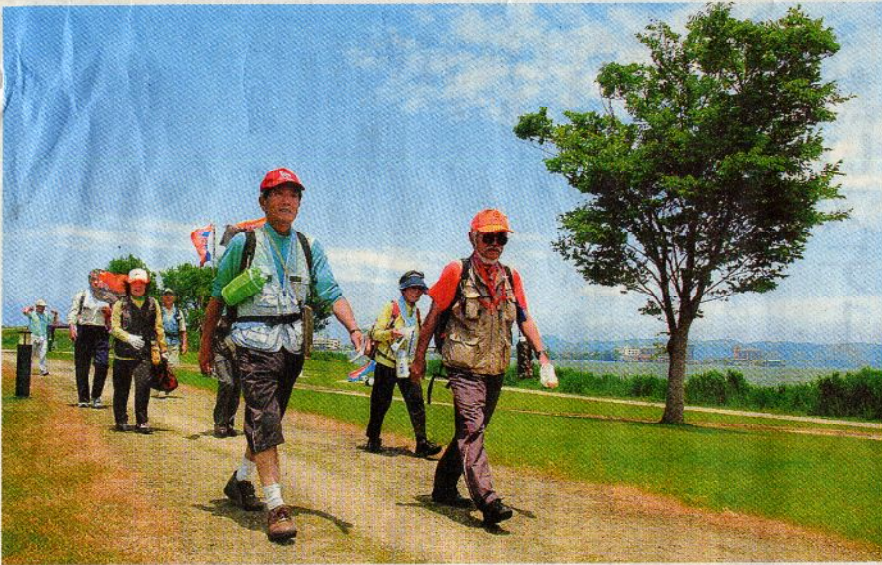


# 自然を満喫、笑顔あふれ

初夏の伯耆路を巡る「第9回日本海未来ウオーク」(NPO法人未来、新日本海新聞社など主催)が6日、2日間の日程で開幕した。青空と深まる新緑、さわやかな風に後押しされ、全国各地から集った約1400人のウォーカーは軽快に歩を進めた。大勢のボランティアも大会運営を支え、ウォーカーに元気を送った。



最長40キロコースの出発式では、大会長の山田修平鳥取短期大学長が「自然の恵み、まちの鼓動、人の優しさを感じながら、歩くことを精いっぱい楽しみましょう」とあいさつ。96人が2つの山越えがある健脚コースに挑んだ。新緑の大平山を抜けて東郷池沿いを歩く24キロコースには初日最多の473人が参加。木



さわやかな風が吹き抜ける東郷池沿いを歩くウォーカー＝6日、湯梨浜町長和田

## 全国から1400人 軽快に歩きを楽しむ

漏れ日差し込む緑のトネルや鳥のさえずり、頂上付近から臨む日本海や東郷池、風車の景色を楽しみながら歩を進めた。同コースに参加した大阪府豊中市の仲井かつえさん(66)は「緑は、土蔵群近くの高田

疲れた体にシジミ汁好評

○湯梨浜町引地の中国庭園燕趙園前で

は、東郷池特産のヤマトシジミがたっぷり入ったシジミ汁が約550人分振る舞われ、ウォーカーの疲れた体を癒やした。



シジミ汁を味わい、笑顔のウォーカー＝6日、湯梨浜町引地の燕趙園前

ポランティア 手際よく活躍

○大会を支える大きな力でもあるポランティアたち。初日は約200人が少し緊張しながらも、全国各地や韓国からの参加者たちを迎え、発着地点となる倉吉パークスクエアふれあい広場や各コース上で、手際よく動き回った。

白壁土蔵群にあるチエックポイントでは、倉吉総合高2年の井上由美子さん、本荘亜利沙さん、石井由香さんの3人がスタンプを押す役を担当。初めてのポランティア参加だが、やって来るウォーカーたちに「あと2キロです」「お疲れさまです」などと元気な声を掛け続けた。



チエックポイントでスタンプを押すポランティアたち＝6日、倉吉市の白壁土蔵群周辺